



沖縄語を話す会会報

第10号

2007年11月30日発行

会長 城間 朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9 - 303

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp 國吉 真正

電話 & F a x 044-988-8065

発刊10号記念

躍進

「おきなわ ご はな かい沖縄語を話す会」ちち た けーんあち月に二回集まびんちよーふいてぬ勉強会、しながわ おーさき品川ぬ大崎をて

・うちなー くと じまん な沖縄ぬ事自慢成いくと ばいる遺言葉-----座覇光子

・い ふ ふ ゆー はか伊波普猷ぬ墓-----船津好明

・会報に出てきた語句の説明

・事務局から

ホームページ <http://www.wwq.jp/p/>

うちなー くとじまんな いくとば
沖縄ぬ事自慢成いる遺言葉 座覇光子(川崎市)

「火どーいや 人ぬ先から」

「盗人どーいや 人ぬくしから」

此れ一、沖縄ぬ事自慢成いる遺言葉んで思とーみし
えーる御方ぬめんしえーびーん。

県人会ぬ新年会、うりから敬老会ちて幾回ん言ー
返さーしみしえーびーん。

あんし味系ー深さる言葉ぬあいびーるやーたい。

一杯肝合ぬ深さる言葉やんで思とーいびーん。

一番目やっ人ぬしーら入っちょーいねー、直ぐ走ー
えー成て行じうやぎり。

二番目や、盗人どーんて言ーねー、見だんふーなー
っし、逃ーらし。

二番目なかい書ちえーしえー、「あんし優りとーる
言葉やる。」んで、我んにんあん思とーいびーん。

ゆーしーねー、今ぬ世んじえー、ゆく勘取らりーる言
葉やる筈やいびーしが、うぬ肝合ぬ深さし繰い返し
返し考ーて見でーやーんで、思とーいびーん。

沖縄ちてー、どく貧相成てちゃーん成らんとくど、
っ人ぬ畑から大根ど芋けー取て、やーさ苦さ凌じゃ
んでる話んあたんでぬ事やいびーん。

うぬ日嘯むし御賜みそーち、命たぶたんでぬ様子ぬ
見ーゆる如どあいびーる。

くぬ事一、「命ど宝」んで言しん解いんねーさびー

ん。生ちちゅんで言しえー、上辺びけーん清らされー
済むんでる事ーあらんで、思知らさっとーいびーん。

まじ、「盗人どふーじゅらーや資本主義社会ちてー
無ーん成らんえーさに。」んでる事、我ん頭んかい
強く入っちょーいびーん。

「盗人居らん成する為ねー、此ぬ世変て行かんだ
れー成らん。難さる世やんどんあれー、ゆくん盗人
一逃ーらち行ちゅん。」此れー人間ぬ真ん心ぬ事言ち
よーんねーさびーん。

うりやか上てぬ事ー無ーらん人間ぬ本当ぬ心んで
思たい、うりが沖縄ん人んかいあんでる事、我んね
一幾回ん肝打たっとーいびーん。

又此ぬ御話んかい似ちよーしが幾ちんあいびーん。

我んが、小學校五年生ぬ時に読だる書物ぬあいび
ーん。此ぬ書物ー、フランスぬヴィクトル・ユーゴ
ーが書ちえーる「あゝ無情」やいびーしが、うぬ書物
ぬ中なかいある話やいびーん。

牢屋から出てちゃーき、やーさたくと、教会ん
かいふーりんちやるジャン＝ヴァルジャンんでるっ
ちょー、なんざさーに作てーる蠟立てーる台けー取て
無ーやびらん。

あんし、刑事んかい追ーりーる事成て、後ぬうじゅ
めー、ちゃーしんふんぎららん大事な事成て無ーやび
らん。

あんしが、教会ぬ神父さのー「此れ一、盗でーる物
ーあらん。我ーが呉たる物どやる。」んで言るふるま

しー御言葉んかい、うぬジャン＝ヴァルジャンー救
りやびたん。うぬ場所出来ち終わたんで言しやか、ま
ぶいぬ救らって、一杯肝動かさりやびたん。うぬ後、
ジャン＝ヴァルジャンー、生ちみどとーみっ人ぬ為に、
いー行ーすんでる昔物語やいびーん。

我んねー、童そーいにうぬ書物読で、一杯肝打た
りやびたん。

ジャン＝ヴァルジャンヌ並ぬっ人ーあいびらんたし
が、くぬっ人悟らちやるあぬ神父さんぬ御言葉ー、我
んにんかえー、何ぞんぞん言らんふるましー言葉や
いびーたん。

十年前ぬ事やいびーしが、沖縄から出でて来よー
るホームレスぬっ人ぬ事やいびーん。此ぬっ人ー、我
ん知合ーやいびーしが、うん人が大根とびら畑から
けー取でっ来、ちゃーやーさそーる相中んかい、は
じ歩ちよーいびーたん。うぬ分き分小、我んにん呉ら
って、何んぞ言ちゃらー益しやが、解いびらんたん。
うぬ時、我んが言ちゃしえー、「まったきー引ち抜が
ん如、ふきで取いねー益しやさ。」んでる事やいびー
たん。
やーさ苦さそーるっ人んかえー、「取らんけー。」んで
一言ーゆーさびらんたん。

うぬ後、我んが一杯敬とーる神父さぬんかい、此
ぬ御話に付で、うんぬきやびたくと、「うれー盗人
んで一言びらん。」でる御言葉んかい肝んやーやーど
成いびたん。

此ぬよーな事ー、世界ぬ何処がなちて、余いるあ
たいぬ余財持っちょーるっ人ど、やーさ苦さっしま
ーするっ人んかい分かりんでる、此ぬ世ぬ仕組みど、
深く関わいぬあんで思とーいびーん。

フィリピンをてー、貧相互に分きて生ちちょーん
で言る事ん聞ちゃびたん。沖縄んあんで成いねー、益し
やんで思とーいびーん。

しーじゃ方から聞ちやる遺言葉んかい肝打たりや
びたん。あんし、此ぬ事ー、沖縄ぬ事自慢成いんで思
とーいびーん。

伊波普猷ぬ墓

船津好明（小平市）

伊波普猷や昔、沖縄んかい係わゆる色々な墨始
みたるっ人どっし、音打っちょーいびーん。うん人ぬ
墓ぬ浦添城跡ぬ中んかいあいびーん。城跡んか
い入る所んかえー車置ちゆる庭ぬあいびーしが、
んまから中んかい向かて歩ちゆる道中ぬ、右むて
ぬい下とーる所ぬ山ぬ中んかいあいびーん。
墓んかい降りーる道ぬ分かりとーる所んかい札ぬ
たてらっどーいびーしが、うりんかえー墓に付て書
かっどーいびーん。言葉ー沖縄口ーあらん、大和口
成とーいびーしが、我ーが沖縄口んかい直しーねー、
大概下ぬ如成いびーん。

『伊波普猷ぬ墓』

伊波普猷や、明治9年那覇をて生まりやびたん。沖縄

じんじょーちゅーがく しゅりこーこーな めー がっこー や
尋常 中学(首里高校成る前ぬ学校)辞みらさつ

あと やまと へん さんこー あど きょーとだいがく
たる後一、大和んかい行じ、三高(後ぬ京都大学)

とーきょーてーこくだいがく い くとば がくむんびんちょー
から東京帝国大学んかい入っち、言葉ぬ学問勉強

とーだい ち くる うらしー す い
さびたん。東大んかい居たる頃から、浦添ぬ、首里や

めー うちなー みやく くと はじ か あらわ
かん前に沖縄ぬ都やたる事、初みて書ち表ちやる

うらそえこー くと すく かんげ か
「浦添考」ぬ如ーる優りとーる考ー書ちまどみやー

ゆ なか へん
に、世ぬ中んかい出じゃちょーいびーん。

うちなー けー い けんりつ としよかんちょーな れき
沖縄んかい帰てから、伊波ー県立図書館 長 成て、歴

しけんきゅー うちなー なんかしえ ちゃ ちゅう くとしら
史研究、沖縄ぬ 昔ー如何ーやたがんで言る事調べ

はいばん あどやまと う
やがなー、廃藩ぬ後大和から押せーらつて、ちるだいそ

うちなー ちゅ ちゃー と むど
ーる沖縄ぬっ人ぬ 達ぬいじり取り戻しえーやーんで、

かんげ くる たいしよーじゅーゆ にん ちゅけーんとー
うぬ考ー広みやびたん。大正 14 年、なー一回 東

ちょー い いくさ
京んかい行ちやびたしが、戦っしアメリカんかいさつ

うちなー い うちなー あどあど
たる沖縄や、まーかい行ちゅがやーんでち、沖縄ぬ後々

くとしわ とーちょー あど
ぬ事心配さがなー、東京 ちてまーさびたん。うぬ後、

い けんきゅー かか ふか うらしー はか ちゅく
伊波ぬ研究と関わいぬ深さたる浦添んかい墓ぬ作ら

ほーむ
つて、んまんかい葬らつとーいびーん。

うらそえ しきょーいく いんかい
浦添市 教育委員会』

うらしーぐしくあど
うんじゅなーん、浦添 城跡んかいめんしえーいぬ

ふだ みか
一、くぬ札う目掛きみそーり。

い ぶゆー う しみ がくむん
伊波普猷ぬ起くちやる墨・学問でしえー、うりま

し うちなー れきし みんぞく ぶんがく
でーあんすか知らりらんたる沖縄ぬ歴史、民俗、文学

う まんちゅ わか たみ
んで、御万人んかい解らする為なかいまどみたる

れきし なんかし いち まー
むんやいびーん。歴史んでしえー、昔、何時、何処ち

て、如何ぬ様な事ぬあたが、起くたがんでる事、解ら

くと みんぞく なんかし なげ ちぢ
する事やいびーん。民俗んでしえー、昔 から長一続

いるいる なれ くと ぶんがく
ちょーる色々な習ーぬ事やいびーん。文学んでしえ

うそーし くと く むる
一、「うむる御草紙」ぬ事やいびーん。此り諸うさー

やまとくち おきなわがく い
ち、大和口っしえー「沖縄学」んで言ちょーいびー

ん。

はか やま なーか やま
墓ー山ぬ中んかいあいびーしが、くぬ山んでしえ

たか ばそ きー とくる
一高さる場所ーあいびらん。木ぬふちゃーとーる所

ちゅえー はか めー くー なー
ぬ肝合やいびーん。墓ぬ前んかえー小さる庭ぬあて、

いし くる た
んまんかえー石ぬ碑ぬ立っちょーいびーん。うりんか

えー「顕章碑 おもろと沖縄学の父 伊波普猷」んで

ふ まー くー じー
彫らつとーいびーん。うぬ囲いんかい小さる字さー

りっぱ はたら くと ふ
に立派な 働 ちぬ事ん彫らつとーいびーん。あんし、

はか い はか なー くる
墓んで言ちん墓びけーのーあらん、庭ど碑ぬあいび

ーくと、んまー「伊波霊園」て言らつとーいびーん。

わ うちなー へん
我んねー沖縄んかい行じ、まどぬあいねーんまんか

ちが い にしんるくにんくふち へん ちち
い拝みーが行ちやびーん。2006 年 9 月に行じやる時

ねー、んまー誰ん頓着 んしえーちらんねーさびたん。

くる か じー ほー ゆ ぐり
碑んかい書ちえーる字や、ぬーりぬ道て読み苦さい

はか し かん かび
びーたん。墓んかえー捨てらつたるビン、缶、紙ん

ち わ
でーぬ散らかて、はごーさいびーたん。我んねーうり

ふつ ふくる い む けー
拾て袋 んかい入りやーに、んまから持ち帰やびた

ん。

い くれーんまむ たー かんげ
伊波霊園守えー誰やみしえーがやーんで考ーて

んー たふだ か うらそえ しきょーいく い
見じーねー、立札んかい書ちえーる浦添市 教育委

いんかい くと くる じーふつ
員会やる如ーいびーん。あんし、碑ぬ字 隠 ちょーる

ぬーり取^とて退^ぬきりわど^ま益^ましいびーしが、役所^{やくそ}ー
 忙^{いぢゆな}さがあら、思^う寄^みらんがあら、うぬま^な成^なとーい
 びーたん。むしボランティアぬ^{ちむ}肝^{どーかんげ}っし^{そー}胸^そ考^考ーっし掃^掃
 除^じしーねー、碑^{ふい}壊^くちえー大^で事^じやいびーん。碑^{ふい}や、清^{ちゆ}ら
 くすんて^ゆ言^かしやかー、書^かちえーる字^じ読^ゆまりーる如^{ぐど}すし
 ど^{てーしち}大切^{れーえんまむ}やいびーる。霊^{うらそえ}園^し守^{きょー}とーる浦^い添^い市^い教^い育^い委員^い
 会^{かえ}ー、くぬ事^{くどう}御^{かんげ}考^{かんげ}ーみしえーしえー益^ましんて^{うむ}思^思やび
 ーん。

会報に出てきた語句の説明

(沖縄語辞典、広辞苑による)

- ・くし：背中。後ろ。
- ・遺^{いくとば}言葉：ことば。言い伝え。昔の人の言い残したこ
とばなどをいう。
- ・めんしえーん：いらっしゃる。おいでになる。いる・
行く・来るの敬語。
- ・しーら入^いゆん：困る。苦しむ。病気になる。
- ・うやぎゆん：ささえる。援助する。
- ・見^んだんふーなー：見ないふり。
- ・ゆーしーねー：もしかすると。ひょっとしたら。
- ・ゆく勘^{かん}取^とゆん：誤解する。
- ・どく：あんまり。ひどく。
- ・ちゃーん成^ならん：どうにもならない。
- ・けー取^とゆん：かっぱらう。ちょろまかす。
- ・やーさ苦^{くり}さ：飢えの苦しさ。
- ・命^{ぬち}たぶゆん：命を大事にする。
- ・ふーじゆらー：街娼。辻君。
- ・ゆくん：さらに。なお。もっと。
- ・ちゃーき：すぐ。じき。
- ・やーさん：ひもじい。空腹である。
- ・ふーりんちゆん：はいり込む。
- ・なんざ：銀。
- ・後^{あと}ぬうじゆみ：とどのつまり。結局。

- ・ちゃーしん：どうしても。
- ・ふいんぎゆん：逃げる。
- ・～やか：より。比較の時使う。
- ・まぶい：魂。生きている人の魂をいう。死者の霊は
魂^{たましー}という。
- ・生^いちみどとーみ：生きている限り。一生。
- ・何^{ぬー}どん^どん言^いららん：何とも言えない。ことばで表
せない。
- ・ふい^ふるまさん：不思議である。
- ・ちゃー：いつも。常に。
- ・はじゆん：配る。分ける。
- ・まったきー：全部。まるまる。そっくり。
- ・ふきゆん：間引きする。
- ・うんぬきゆん：申上げる。
- ・やーやーと成^なゆん：静まる。また、ほっと安心する。
- ・まーすん：死ぬ。なくなる。
- ・しーじゃ方^{かた}：先輩たち。
- ・音^{うどう}打ちゆん：評判が高い。遠方まで知られる。
- ・んまから：そこから。
- ・押^うせーゆん：あなどる。軽蔑する。
- ・ちるだい：失望。落胆。
- ・～がなー：ながら。
- ・いじり：意気。意気地。気力。
- ・あんすか：それほど。さほど。
- ・うさーすん：一緒にする。合わせる。
- ・ふちゃーゆん：茂る。繁茂する。
- ・まど：あき間。すき間。暇。
- ・ぬーり：こけ。
- ・はごーさん：きたない。不潔である。

*本文では、語句は活用されていますので、ここに示しました語句
とは必ずしも一致しておりません。

事務局から

今回はお陰さまで、発刊10号を出すことが出来ま
した。
貴重な原稿を寄せていただき、大変ありがたく思いま
す。これからもさらに発展させていきたいと思ってお
りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。
ホームページも充実してきましたので、ご愛用くださ
い。

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

と[tu]	とーい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)	と[he]	とー(南) にとーでーびる(有難うございます)
と[to]	とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ[he]	へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど[du]	どし(友人) やど(宿) どー(自分)	や[?ja]*	やー(君、お前) やん(言わない)
ど[do]	どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や[ja]	やー(家) やん(である)
て[ti]	てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空)	ゆ[?ju]*	ゆん(言う)
て[te]	てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ[ju]	ゆんたく(おしゃべり)
て[di]	ふて(筆) めーてー(喉) てきやー(秀才)	よ[?jo]*	よーいー(おさな子)
で[de]	でーじ(大変なこと) ちょーでー(兄弟)	よ[jo]	よーんなー(ゆっくり)
か[kwa]	かじ(火事) かっちー(ごちそう)	あ[?wa]*	あー(豚) あーちち(天気)
か[ka]	かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ[wa]	わーむん(私のもの)
か[gwa]	にんぷん(念願) ぷんく(頑固)	あ[?wi]*	あー(上) あーりきさん(面白い)
が[ga]	がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	あ[wi]	あきが(男) あなぐ(女)
か[kwi]	くー(声) さっくー(咳) くゆん(呉れる)	あ[?we]*	あーきー(金持ち) あんちゅ(ねずみ)
き[ki]	きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	あ[we]	ういあー(お祝) わじゃあー(災い)
く[?gwi]	くーく(越来「地名」)	ん[?N]*	んみ(梅) んに(稲) んなじ(うなぎ)
ぎ[gi]	かーぎ(容ぼう)	ん[?N]	んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなと(港)
く[kwe]	くー(鋏) からじくー(髪きり虫)	い[?i]*	いん(縁) いだ(枝)
け[ke]	けー(かゆ) ちけー(使者)	い[?i]	いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
く[gwe]	くったい(ぬかるみ)	ち[?u]*	ちと(夫) ちーじ(さとうきび)
げ[ge]	げー(害) にげー(願い)	う[?u]	うと(音) うーび(帯)
ふ[hwa]	ふー(葉) なーふ(那覇)	え[?e]*	えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は[ha]	はる(畑) はぎもー(荒地)	え[?e]	えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
ふ[hwi]	ふじやい(左) ふーと(いるか)	お[?o]	おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ[hi]	ひやみかすん(えい、と言う)	を[?o]	をーじ(王子) をーれー(往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方 (自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例　○とゐ(鳥) ×とゐ

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。